

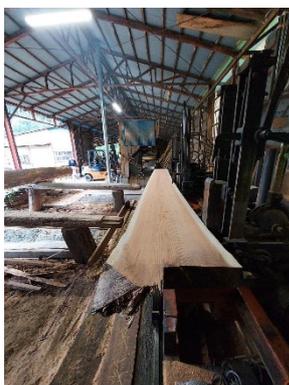
天峰建設製材部 澤元教哲

天峰建設では、山主との直接取引や、市場の競りで丸太や銘木や希少材などを購入し、それらを自社製材工場で挽いて自然乾燥・保管を行っております。

また、専門の伐採師や森林組合の方と密に連絡をとっており巨木の伐採時には連絡が来て、直接購入させていただくともあります。巨木などの希少材も神社建築では必要ですが、普段から使う柱や梁などの構造材、下地に使う羽柄材という細かな部材も必要なため、丸太で購入し天峰で必要な寸法に自分たちで挽くことがとても有効です。



製材している様子



お客様にお出しする材木の品質はもちろんの事、材木を安く提供できることでもあり、自社で材木から用意できることは大きなメリットです。

千年前と今の製材方法の違い

千年前の製材の方法は、今の時代と違います。

電動の帯鋸などはもちろん無く、原木丸太にクサビを打ち込み、木を割って、槍鉋、斧、チョーナーといった手道具で製品にしています。木材一本にかける時間と労力は計り知れないですが、クサビを打ち込んで割る事によって木の癖が抜けて後から反ったり、曲がったりしない利点がありました。

今の時代は機械を使った製材方法がほとんどで時間も労力も短縮されますが、それだけでは木の癖は抜けないため、反りや曲がりが出てきてしまいます。

なので、一度機械で製材したら時間をかけて自然乾燥をさせ、木の癖をもう一度出します。あえて木を反らし、曲がりの癖を出してからもう一度製材することにより、昔よりは手がかかりますが後々に、狂いのこない良い建物を造ることが出来ます。